

正な事務職員の配置に努める必要がある。

## 第6項 へき地教育

### (1) 児童数

昭和51年度から昭和58年度までのへき地指定地域の児童数の推移を見ると、過疎化の進行に伴い年々減少している(表2-2-13)。この傾向は、今後も続くものと想定される。

今後とも、児童の減少傾向を踏まえ、へき地の実態に応じた教育諸条件の整備に努める必要がある。

### (2) 学校配置

昭和51年度から昭和58年度までのへき地指定地域の学校数の推移を見ると、児童数の減少に伴う統廃合により減少している(表2-2-14)。

したがって、今後は、へき地指定地域における児童数の推移を見極めるとともに、地域住民の理解と協力を得ながら学校の適正な配置を促進する必要がある。

### (3) 複式学級の学習指導

昭和51年度から昭和58年度までの編制方式別学級数の推移を見ると、複式学級数は年々減少しているが、昭和58年度においても207学級ある(表2-2-15)。また、複式学級担当教員は経験5年以下の者が多い。

そのため、複式学級指導資料を作成配布するとともに、へき地担当教員研修会を実施し、複式学級の学習指導法の改善充実に努めてきている。

したがって、今後は、へき地の教育水準維持向上のため、学習指導法の改善を図るとともに、教職員の資質の向上に努める必要がある。

表2-2-13 へき地指定地域の児童数

(単位：人)

区分	年度							
	51	52	53	54	55	56	57	58
1級地	6,983	6,599	6,346	6,209	5,833	5,704	5,666	5,542
2級地	740	536	437	417	490	468	445	443
3級地	369	347	329	305	266	233	226	222
4級地	105	86	83	77	66	63	63	55
5級地	9	7	5	3	3	3	2	0
計	8,206	7,575	7,200	7,011	6,658	6,471	6,402	6,262

注：「学校統計要覧」(昭51～昭58)による。

表2-2-14 へき地指定地域の学校数

(単位：校)

年度	1級地		2級地		3級地		4級地		5級地		計	
	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
	51	66	48	12	19	4	21	0	10	0	1	82
52	63	49	10	19	4	20	0	9	0	1	77	98
53	63	47	9	17	4	18	0	9	0	1	76	92
54	61	46	9	16	4	18	0	8	0	1	74	89
55	57	41	8	16	4	16	0	9	0	1	69	83
56	55	41	8	16	3	16	0	9	0	1	66	83
57	55	41	8	16	3	15	0	9	0	1	66	82
58	52	40	8	16	3	15	0	8	0	1	63	80

注：「学校統計要覧」(昭51～昭58)による。

表2-2-15 編制方式別学級数

(単位：校、学級)

区分	年度							
	51	52	53	54	55	56	57	58
複式学級 (学校数)	333 (162)	297 (158)	287 (156)	276 (150)	249 (136)	235 (129)	229 (126)	207 (112)
単式学級	5,545	5,561	5,586	5,586	5,750	5,814	5,848	5,903
特殊学級	537	538	514	483	453	440	410	406
計	6,415	6,396	6,387	6,445	6,452	6,489	6,487	6,516

注：1. 「学校統計要覧」(昭51～昭58)による。

2. 学級数は公立学校のみである。